

## 原種シクラメンの開花

磯 部 実

1978年～1982年までに本園に導入したシクラメンの原種について開花状況を報告する。

### 栽培管理

導入の形態は、種子及び休眠球の二通りの方法で行った。種子は導入した年の秋に播種し、開花は播種後2～3年月から始まった。一方球根で導入したものは早いものではその年の年末に開花した。

年間を通してガラス温室内に置き、冬期の最低温度は10℃に保った。夏に自然休眠する種は

乾燥状態で夏を越させた。駄温鉢または素焼き鉢に赤玉土、日向土、腐葉土の混合用土で植えつけ、用土中には肥料を混入せず、開花までは液肥を10日に1度与え、開花後はマグアンプKと液肥を与えた。

### 生育と開花状況

春から夏の休眠期に腐敗枯死する球根が少数あった。

それぞれの種の導入状況と開花期は表のとおりである。ガラス温室内では加温栽培のため春咲きの種類は開花が早まる傾向にあり、また生育周期の狂いがみられた。同一種内でも個体差が激しく、形態や性質にも変化が見られた。

シクラメン原種の導入状況と開花期

	種 名	導入先 <sup>※</sup>	導入年度	導入形態		開花期	備 考
				球根	種子		
1	abchasicum	A	'82. 8	○		冬～春	Syn. coum
2	africanum	B	'78. 10		○	秋	coum × persicum
3	aktinsii	C	'81. 10		○	冬	
4	balearicum	A	'82. 8	○		春	
5	cilicium	A	'82. 8	○		秋	
6	c. var. intaminatum	A	'82. 8	○		夏	
7	coum	B	'78. 10		○	冬～春	
8	c. var. caucasicum	A	'82. 8	○		冬～春	
9	c. var. hiemale	B	'78. 10		○	冬	
10	c. var. vernalium	C	'81. 10		○	冬	
11	creticum	A	'82. 8	○		冬～春	
12	cypricum	A	'82. 8	○		秋	
13	graecum	A, D	'81, '82	○		秋	
14	hederifolium	B	'78. 10		○	秋	
15	libanoticum	A	'82. 8	○		冬～春	
16	mirabile	A	"	○		秋	
17	parviflorum	A	"	○		冬	
18	persicum	A, D	"	○		冬～春	
19	pseudibericum	A, D	'80. 10	○		冬～春	
20	purpurascens	A	"	○		春～夏	
21	p. var. fatrense	A	"	○		春～夏	
22	repandum (pink)	A	"	○		春	
23	repandum (white)	A	'82. 8	○		春	
24	rohlfsianum	D	'81. 10	○		未開花	
25	trocopteranthum	A	'82. 8	○		冬～春	

### ※導入先

A, イギリスA社

C, 西ドイツボン大付属植物園

B, 西ドイツアーヘン植物園

D, 京都府立植物園